

子どもの心の安定を援助する「傾聴」



～「分かってくれた」「認めてもらえた」と感じる子ども～



当センターでは、子どもや保護者、教職員の皆さんの心の安定を援助する「教育相談事業」を行っています。各事業の相談活動では、「傾聴」中心の相談活動を行い、相談者の心の安定を目指しています。

「傾聴」とは、相手の感情をそのまま受け止めること、耳だけではなく、目、心を素直に向けて聴くことです。耳のみで話の内容だけを聞いていると、言葉に込められた気持ちや言葉に表現されない本音を受け取ることができません。目を向けて表情や態度から気持ちを察したり、心に向けて本音を押し量ったりしながら聴きます。相談者の言葉や行動の背景にある感情を受け止めようとすると、相談者は「分かってくれた」「認めてもらえた」と感じて、自身の心を落ち着かせることにつながります。

「学校訪問相談」では、学校訪問カウンセラーは「傾聴」しつつ、子どもと一緒に考えたり、話し合ったりします。来室時よりも穏やかな表情で面談を終える子どもの多くが、「話を聴いてもらって、うれしかった。」と、話を聴く行為に対する気持ちを口にします。「話を聴いてもらって、少し元気になった。」と話す子どももいます。「傾聴」が、ときに言葉掛け以上に子どもの心に響き、元気づけていることを実感します。

「傾聴」は、相談活動だけではなく、家庭生活や学校生活などの様々な場面で、子どもの心を落ち着かせ、悩みや困難の解消・解決に向かう元気をもたらしています。子どもが面談中に、「弟とけんかしてイライラしていたけれど、家族が話を聴いてくれたので、仲直りしようと思えるようになった。」「友達に悪口を言われてつらかったときに、先生が話を聴いてくれてうれしかった。友達に『悪口はやめて』と言うことができた。」などと話すことがあります。保護者や教職員の皆さんが「傾聴」してくださいただと感ずる瞬間です。

「傾聴」は、相手に心を素直に向けようという心構えがあれば、誰でもすぐに実践できます。実践のポイントを分かりやすく説明した書籍やウェブサイト等も、多くあります。

子どもに直接関わる大人たちによって、必要な場面で「傾聴」が行われ、「傾聴」が子どもの心の安定や元気につながることを願っています。

(文責 学校訪問相談部 藤田)



「所報」は、教育センターのホームページでも公開しています。ご覧ください。

教育センターの
ホームページの
QRコードです。
ご活用ください。





事例で
見る

通常の学級と通級指導教室の効果的な連携について ～児童生徒の自立に向けて～

通級指導教室（以下、通級）は自立活動の場であり、児童生徒が通級で学んだこと（成功体験）を学校生活や日常生活で発揮することを目的としています。そのためには、通常の学級と通級が効果的に連携することが不可欠です。発達通級の事例を通して、効果的な連携の在り方を紹介します。

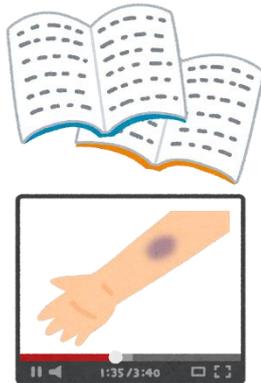
1 対象児童生徒の実態を伝える

学習参観



学校生活での困り感が見える教科、内容、時間帯に設定する。

記録となるもの



ノートや写真、動画などがあると、学習や行動について把握しやすい。

数値やデータ



検査結果やテスト、就学相談記録などは主訴の裏付けとなる。

家庭環境



ゲーム依存や虐待に起因すると思われるケースが増えている。

学習参観だけでなく、ノートなどの学習記録、写真や動画、数値、家庭環境なども通級担当に伝えることが連携のスタートだね。児童生徒の困り感がどこからくるのか探って、支援方策を検討するんだよ。

2 通級の指導を知る

指導記録・ケース会議



指導記録やケース会議から、指導内容が把握でき、支援のヒントとなる。

通級授業の参観



通級指導を参観することで、声掛けの実際や教材、教室環境などを見ることができ、対象児童生徒が参観に抵抗感を感じそうなときは、児童生徒に分からないよう参観し、信頼関係を崩さないようにする。

指導内容、担当者の声掛け、教室環境を知ること、通常学級でどのように対象児童生徒を支援するのが見えてくる。だから、指導記録を見たり参観したりするのが大事なんだね。

3 通常の学級で支援や配慮を実践する

通級指導の導入

通級のときみたいにするよ！姿勢！さすがです！

先生は、通級でぼくを見てくれたから分かってくれるんだな。



成功体験を引き出す声掛け

ほんとだ、次もがんばるぞ！！



姿勢がすばらしい！指示の後にすぐできたところもいいね！

タブレット端末を使ったよい行動のフィードバック

このテーマで、意見を出し合いましょう。



通級が用いた SST の実施

その調子！

やったね！

いいね！

なるほど、そう考えたんだ！



それは〇〇さんしか思いつかないね～。

多彩な肯定的な声掛け

通級指導での成功体験を引き出す声掛けや、通級担当と同じ指導方法の導入をする。それがきっかけとなり、対象児童生徒の通級での成功体験が再現されやすくなる。よい行動には肯定的な声掛けをして、強化していく。

通級での成功体験を通常の学級で引き出すには、いろいろな手立てがあるんだね。対象児童生徒の『自立』、つまり自分でできることを増やしていくことを目指すんだあ！



4 通級は「魔法の杖」か？

通級に行けばいいですか？



通級ではちゃんとしてくれるけど、学級では変じりませんよ。効果を



通常の学級との連携なくして、通級指導の効果は現れません。魔法の杖は通級の魔法の杖です。効果的な連携をお願いますね。

通級にまかせればなしでは、対象児童生徒の「自立」にはたどり着けないのか……。通常の学級でも通級でも、「目をかけ」「声をかけ」「手をかけ」ていこう！



通級は自転車の補助輪と同じです。通常の学級では補助輪を外した状態であるため、「安心感をもたせる先生の配慮」があって「対象児童生徒は自ら自転車をこぐことができる」のです。効果的な連携を今後もお願いします。詳しくは、学校教育課 山崎までお問い合わせください。

(担当 学校教育課指導主事 山崎)

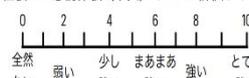


令和4年度 冬期カウンセリング研修

冬期カウンセリング研修にたくさんの方から参加していただきました。研修の感想を紹介します。

心の体温計

・経験した感情体験(不安)を0-10で評価する



・感情について調べる

不安になったきっかけは？

※
やめろ、フーフーなどを
使いつつ



12月26日(月) 認知行動療法による否定的感情との上手な付き合い方

講師：上越教育大学大学院 准教授 田中 圭介 様

◇感情の役割について考えたことがなかったので、改めて感情について知ることができました。ネガティブな感情はどうしても否定してしまいそうになりますが、まずは子どもの気持ちに寄り添っていききたいと思います。不安や怒りの感情の背景に目を向け、何ができそうか一緒に考えることが大切だと分かりました。

◇私たちの対応によって生徒たちの心が変わるので、言葉や態度に気を付けたいと強く思いました。具体的な方策を様々な場面で活用していきたいです。

12月27日(火) 通常の学級における特別支援教育 ～事例を通して学ぶ指導と支援～

講師：新潟大学教職大学院 教授 長澤 正樹 様

◇通常学級において、様々な困難を抱えている子どもがいることを踏まえた集団指導、個別指導が必要であることを改めて学びました。ABC、ABA分析を生かして、子どもの実態に合った対応の検討を行っていききたいと思います。

◇今までなぜうまく対応できなかったのかが分かりました。対応に困っているケースに、こんな風にやってみよう！ケースを見直してみよう！と、子どもや保護者と共に協働して、よりよい支援を頑張りたくくなりました。

12月28日(水) 不登校の予防と支援の実際 ～問題の形成要因と維持要因～

講師：東京学芸大学 名誉教授 小林 正幸 様

◇『「学校に行かなければならない」の考え方が強ければ強いほど、「学校に行くことができない」ようになって自分を不快に、許しがたく考えるようになる』という言葉が印象に残りました。Coping skillsの向上を意識した教育活動をしていききたいと思います。

◇新たな不登校・不適応生徒を生まないためにも、生徒同士の関わりをいかに仕組んでいくか、我々教員がどのように関わっていくかを日々考えながら生徒と向き合っていきたいと思ひます。

◇新年度に行う生徒情報の引継ぎ方法について再検討が必要だと感じました。また、職員研修の際に事例検討を行うことも有効だと感じたので研修に取り入れていきたいと思ひます。

令和5年度カウンセリング研修予定(2月末現在)

7月31日(月) 特別支援教育	上越教育大学教職大学院	准教授	関原 真紀 様
8月1日(火) 学級経営	早稲田大学	客員教授	伊佐 貢一 様
8月2日(水) 生徒指導	関西外国語大学	教授	新井 肇 様
12月25日(月) 愛着障害	和歌山大学	教授	米澤 好史 様
12月26日(火) 不登校支援	FR教育臨床研究所	所長	花輪 敏男 様
12月27日(水) 教育相談	子育てカウンセリング・リソースポート	代表	半田 一郎 様

適応指導教室の名称が令和5年4月1日から変わります。

*名称 「不登校児童生徒教育支援室 子ども未来サポート CoCoMo 北(南)」

*略称・呼称 「(教育支援室) 子ども未来サポート CoCoMo 北(南)」

